



# ドクター板東の メディカルリサーチ

Vol. 121

～いま歴史 伝えて語り 繼ぐ使命～

<http://pianomed-mr.jp/>

今年もあと1ヶ月あまり。  
2015年は戦後70年に  
あたり、日本人にとって非  
常に重要な1年であった。

夏には各報道機関でいろいろな企画が行われることに。  
戦争を後の世代に伝え、語り継ぐという意味で、今後はこれ以上の適切な機会を得るのは難しいだろう。

先日104歳になられた聖路加国際大学名譽理事長の日野原重明先生は、中高年の世代に対して、今年の意義を述べられている。我々誰もが使命を担つて生きているのだが、少しでも何かお役にたつことができていいだろうか？

今回は、日野原先生が主宰されている「新老人の会」が鹿児島の知覧で講演会を開催されたので、その報告をさせて頂きたい。

## 104個の句集

日野原先生は、21世紀を生きる高齢者の意義深い人生を実践していく全国組織「新老人の会」を設立された。そして、今も全国の支部を訪問され、講演会を

続けられている（図1）。

先生がいつも述べられているのは「年をとっても、新しいことを始めよう」という前向きの姿勢だ。単に「始める」よりも創造的な内容で「創める」ことが大切という。



図1



図3

## 大切な知覧

日本人にとって知覧は極めて重要な意味を持つ。特に攻隊の基地があった場所として知られる。

104月  
104歳に  
104句

私は98歳から俳句を始めた。  
いくつになっても新しいことにチャレンジできる。  
この本がその証明です。  
生きているかぎり  
「余生」などない!  
精神はいつでも  
人生の現役であれ!!

日野原 重明 104歳記念句集

図2

入口の手前の石碑には（図4）、特攻隊の若者たちが慕つた鳥濱トメさんの記述がみられた。

いちどは知覧を訪れなければと思い、前もつていろいろと調べていた。しかし、会館で当時の資料や手紙などの言葉に衝撃を受け文面が読めないほどであった。

小生に今できる事は、この歴史事実を回りの人達に



図4



図6



図8

当時、特攻隊の若者たちの心の支えとなつたのが、富屋食堂女主人・鳥濱トメさんだつた。このたび、ト

## 人々を救う菩薩

最期の時「月光の曲」をピアノで演奏し、本や映画でも知られる（図6）。

特攻隊員が出撃前、人生の最後期の時「月光の曲」をピアノで演奏し、本や映画でも知られる（図6）。



図5

メ氏のお孫さんから、当時の模様をお聞きさせて頂く機会を得た（図7）

その中で彼らの最後の晩餐となつたご馳走がある（図8）。先立つ先輩に敬意をはらうかのように母心を込めたおにぎりは、なかなか喉を通らなかつたに違ひない（図9）。



図7



図9

石原慎太郎氏は「美しい日本人」の中で次のように述べている。「生きた菩薩という言葉があるが、そんな人を私はこの世で一人だけ知つてゐる。島瀬トメ」と呼ばれて慕われることでトメさんは、人に明かせぬ彼らの悩み悲しみあるいは恐れを聞き取りつづけた」と。

## 地球をつつむ歌声

講演の翌日、日野原先生は東京でNHK全国学校音楽コンクール（Nコン）決勝大会に生出演された。と

いうのは、小学校の部の課題曲「地球をつつむ歌声」の歌詞を担当させていたからだ。

これまでにも、全国各地の小学校を訪問し、「いの

二人集まればデュエット、三人集まればトリオ、四人集まればカルテット、地球をつつむ歌声はなんと力強いものでしよう。みんなが集まつて生きるところにはみんながならず歌が生まれるといふべきです。歌は人とともに育ちました。

みんなが生きるとこには歌は人とともに育ちました。こどもたちと家族が一緒に両手をふつて平和の歌を歌いましょう。

（板東浩、ばんどうひろし、医学博士、糖尿病専門医、ピアニスト）

## 地球をつつむ歌声

## おわりに

今回、平和をスローガンに含む「新老人の会」の講演会が知覧で行われた。当地でかつて若者を支えた島瀬トメさんや「月光の夏」の物語を我々は後輩に伝えたい。その際、言葉に音楽を伴うと歌の詩が人の心に強く刻まれ、平和への想いがさらに広がっていくだろう。



図11